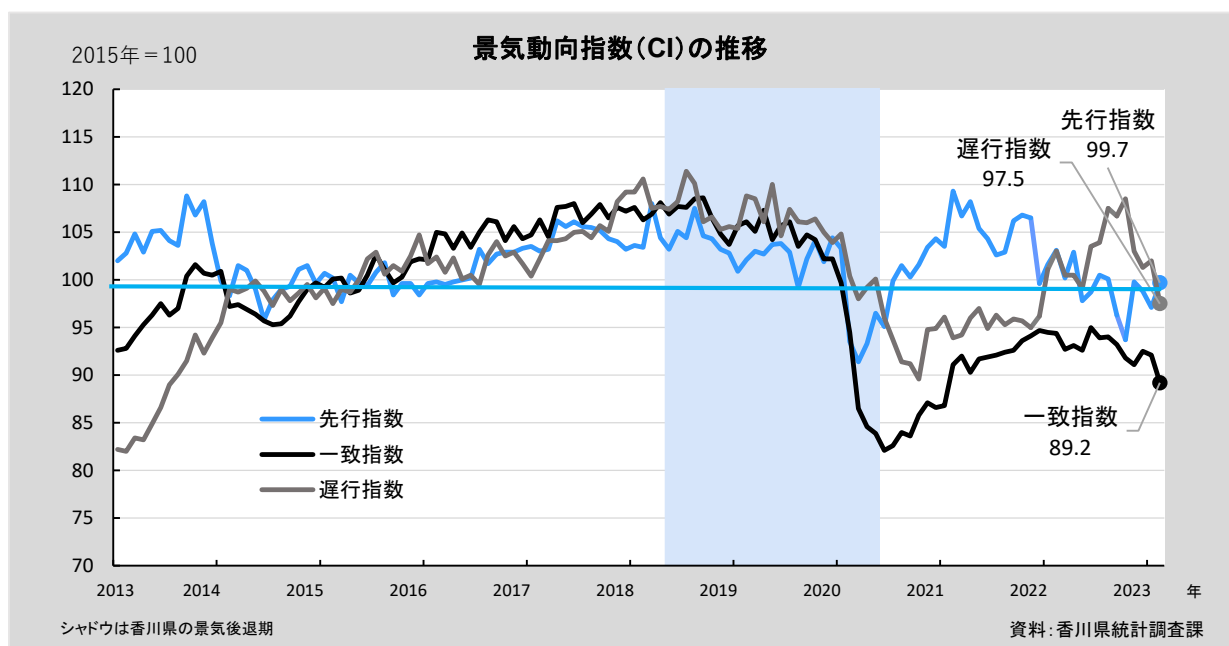


概況	景気は、緩やかに持ち直している。
個人消費	持ち直しの動きが続いている。
住宅投資	低調に推移している。
公共投資	減少している。
生産活動	弱い動きとなっている。
雇用情勢	緩やかに持ち直している。
貿易	輸出、輸入ともに減少している。
観光	持ち直しの動きが続いている。

景気動向指数(かがわ CI) 一致指数 2カ月連続下降



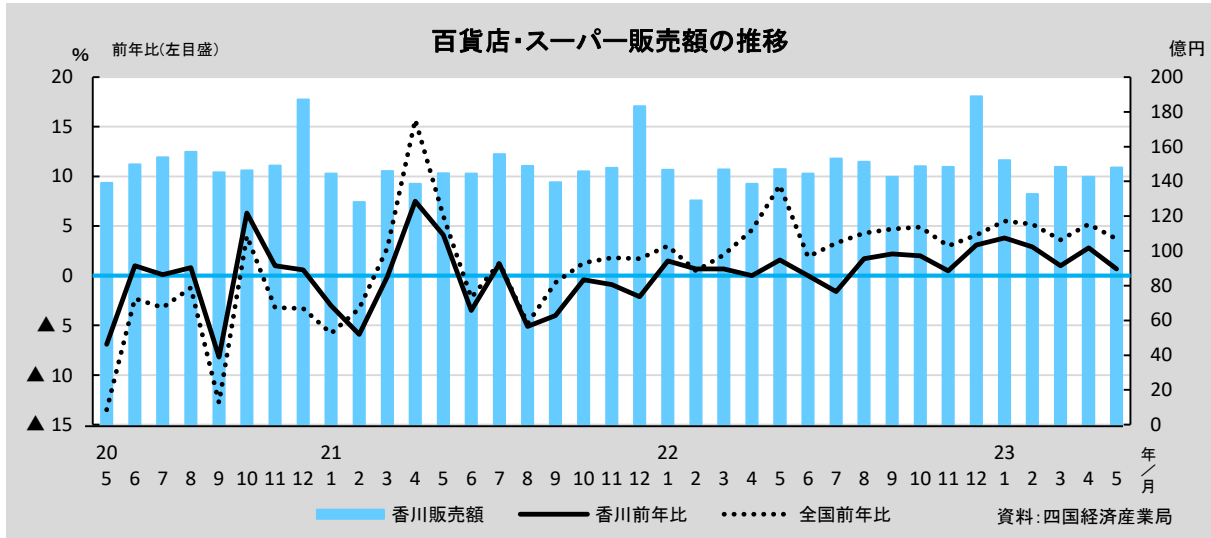
景気の現状をみると、4月のCI一致指数は89.2（前月比▲2.9ポイント）と2カ月連続で下降。CI先行指数は99.7（同+2.6ポイント）と3カ月ぶりに上昇。CI遅行指数は97.5（同▲4.5ポイント）と2カ月ぶりに下降。

景気の現状を示す一致系列の個別指標では、建築着工床面積、有効求人倍率等が下降に寄与したことにより、前月から2.9ポイントの下降となった。

	先行系列	寄与度	一致系列	寄与度	遅行系列	寄与度
採用 景気 指標	1 新規求人数	▲ 0.94	1 雇用保険受給者実人員	▲ 0.30	1 常用雇用指数	▲ 0.24
	2 乗用車新車登録台数	0.56	2 有効求人倍率	▲ 1.00	2 有効求職者数	▲ 0.69
	3 鉱工業在庫率指数	2.02	3 所定外労働時間指数	▲ 0.70	3 消費者物価指数	0.16
	4 生産財生産指数	2.11	4 鉱工業生産指数	▲ 0.24	4 家計消費支出	▲ 0.66
	5 新設住宅着工戸数	▲ 1.13	5 鉱工業出荷指数	0.28	5 鉱工業在庫指数	▲ 0.24
	6 金融機関貸出残高	▲ 0.27	6 建築着工床面積	▲ 1.20	6 法人事業税調定額	▲ 1.05
	7 消費者態度指数	0.51	7 百貨店・スーパー既存店販売額	0.23	7 第3次産業活動指数	▲ 1.53

●百貨店・スーパー販売額

10 カ月連続増加 ↑

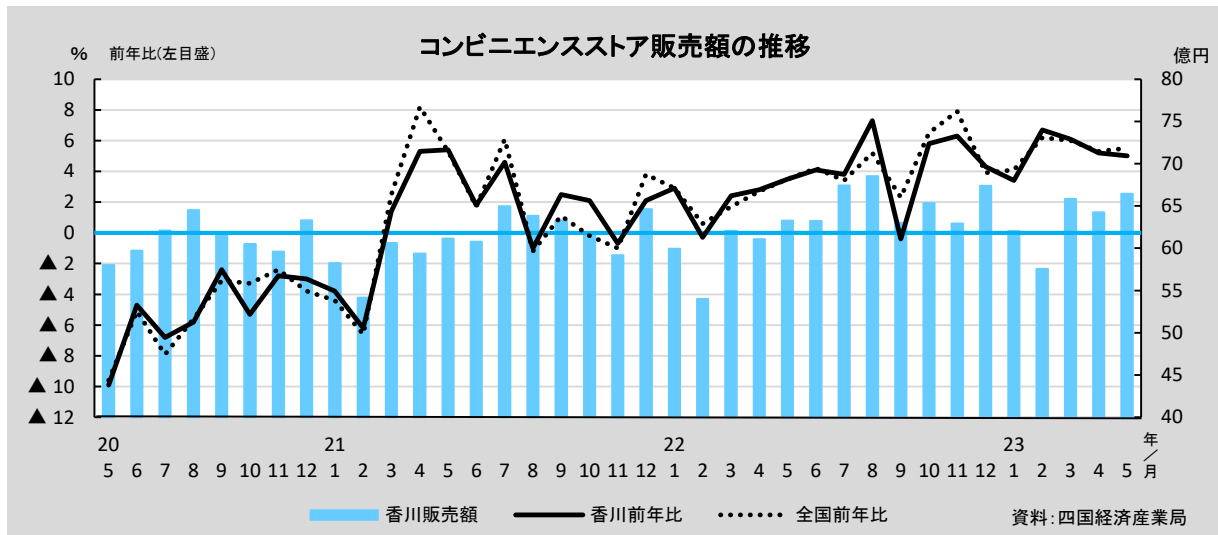


2023/5月	衣料品	身の回り品	飲食料品	家具	家庭用 電気機械器具	家庭用品	その他の商品	食堂・喫茶	合計
販売額(万円)	114,292	66,770	1,080,932	2,315	4,625	65,665	144,563	536	1,479,698
前年同月比(%)	4.9	8.6	▲0.3	24.1	▲4.3	165.2	▲21.2	29.8	0.7

5月の百貨店・スーパー全店(83店)の販売額は148.0億円で、前年同月比+0.7%と10カ月連続で増加した。外出機会の増加で「衣料品」は同+4.9%、バッグや靴などの「身の回り品」は同+8.6%と堅調に推移した。一方「飲食料品」は物価高による買い控えがみられ同▲0.3%となった。

●コンビニエンスストア販売額

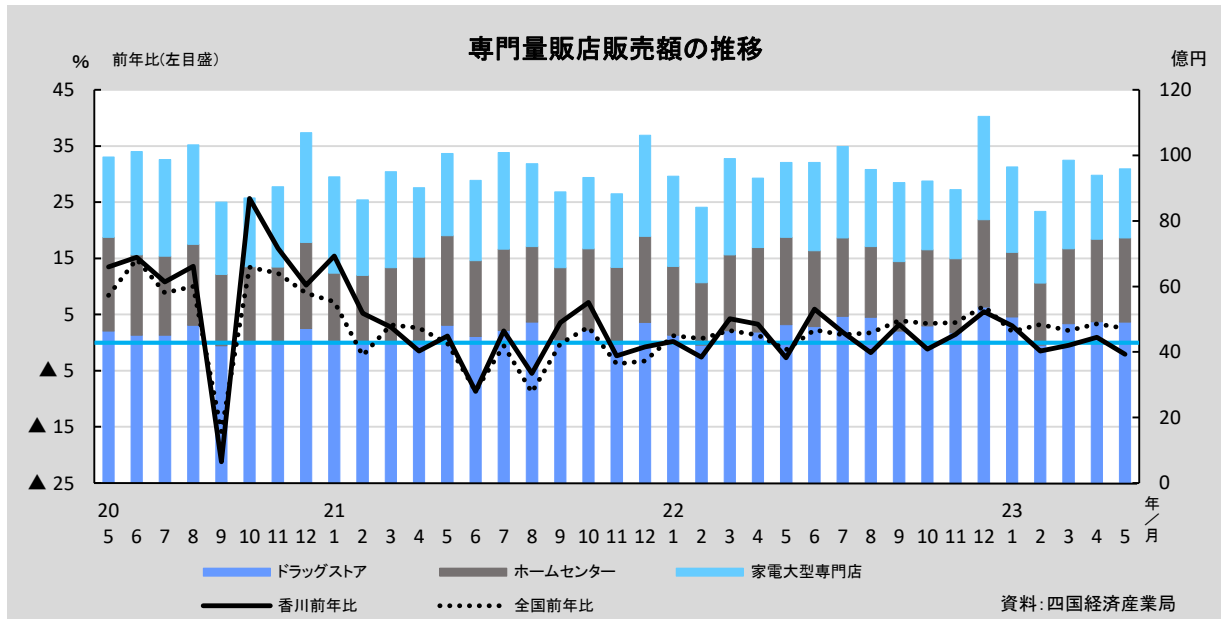
8 カ月連続増加 ↑



5月のコンビニエンスストア全店(403店)の販売額は66.5億円で、前年同月比+5.0%となった。入店客数の増加、販売促進効果、商品価格の上昇などで販売額が増加したほか、カウンターコーヒーやフライヤー商品などが好調で、8カ月連続の増加となった。

●専門量販店販売額

2カ月ぶり減少 ↓

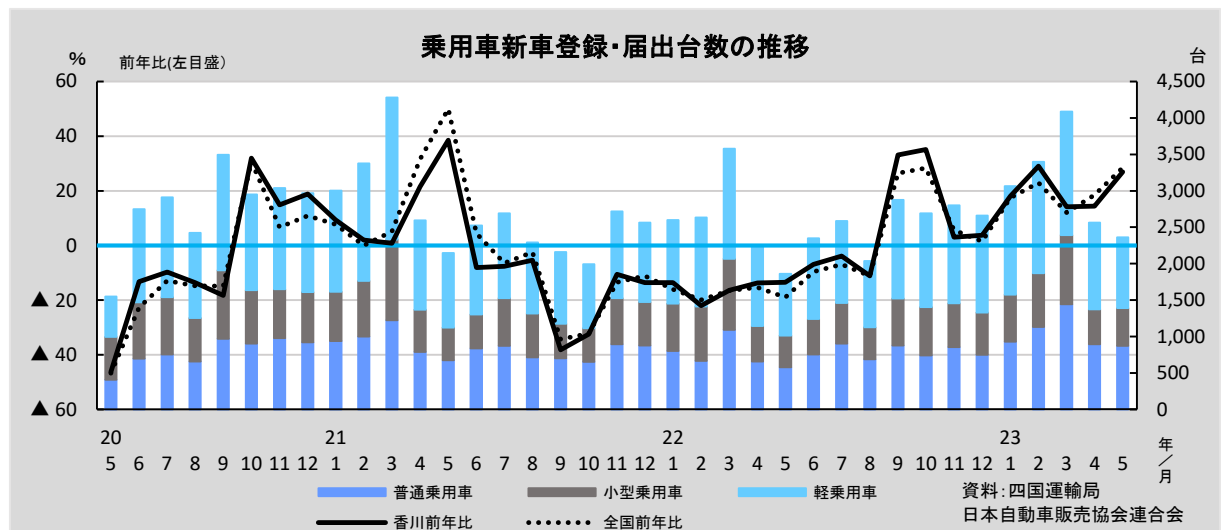


5月の専門量販店全店(212店)の販売額は95.9億円で、前年同月比▲2.1%と2カ月ぶりに減少した。

業態別にみると、**家電大型専門店**(29店)は、テレビや生活家電の動きが悪く、販売額は21.1億円で前年同月比▲8.1%、**ドラッグストア**(138店)は、冷凍食品などの食品や調剤医薬品が堅調に推移し、販売額は49.1億円で同+1.7%となった。**ホームセンター**(45店)は、入店客数の減少や、前年に価格上昇で売上が伸びた木材の反動減で、販売額25.7億円で同▲3.7%となった。

●乗用車新車販売台数

9カ月連続増加 ↑



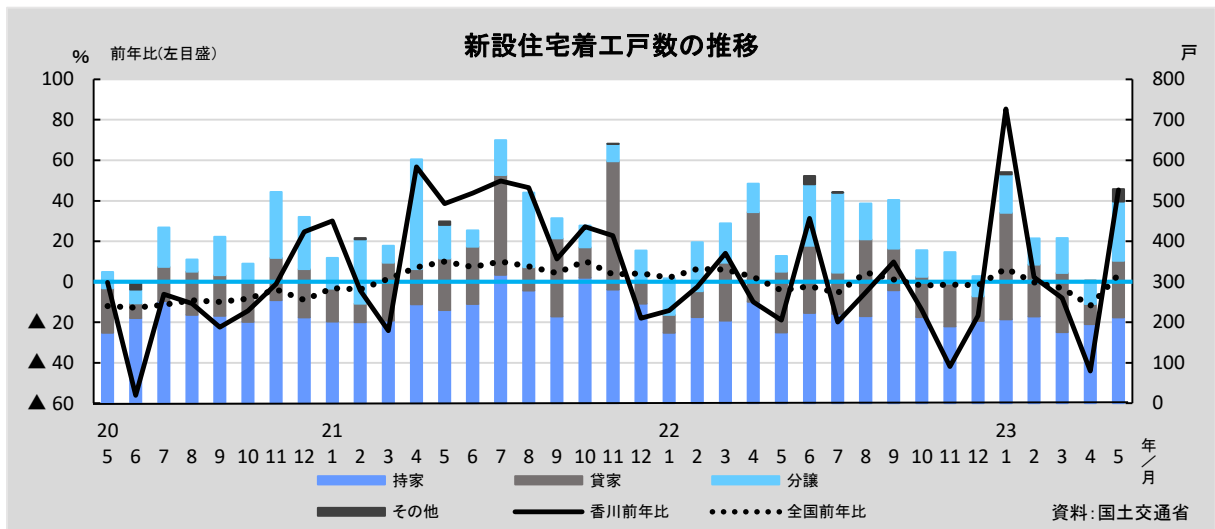
5月の乗用車(普通・小型・軽)新車販売台数は2,361台で、半導体不足や部品調達難が深刻だった前年の反動増で、前年同月比+26.9%と9カ月連続で増加した。

車種別にみると、普通乗用車で前年同月比+50.6%、小型乗用車で同+19.4%、軽乗用車で同+14.5%となった。

住宅投資 低調に推移している

●新設住宅着工

3カ月ぶり増加 ↑

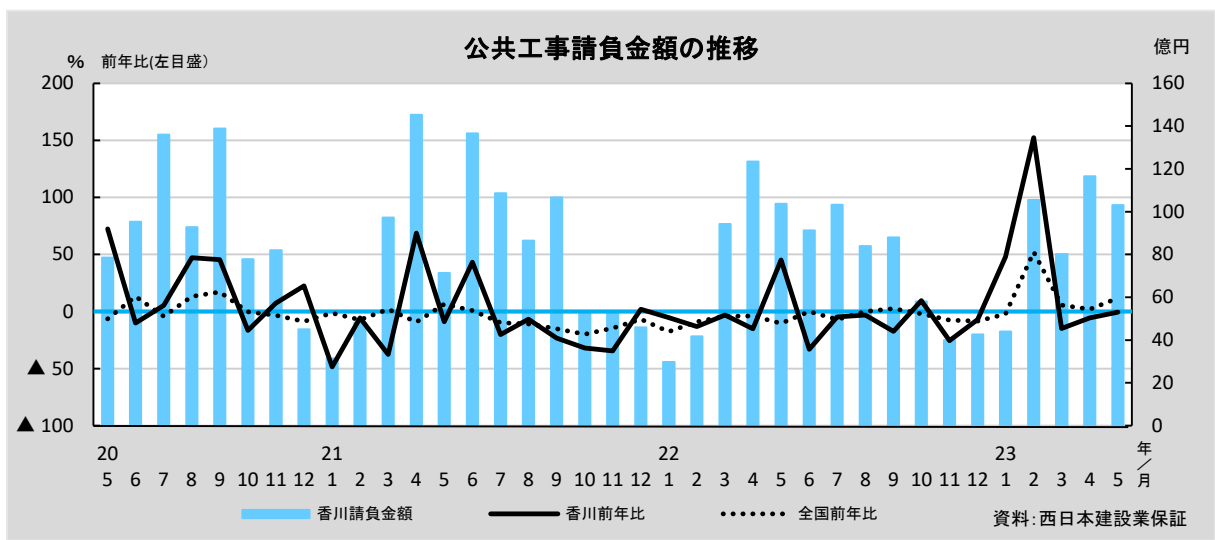


5月の新設住宅着工戸数は529戸で、前年同月比+45.3%と3カ月ぶりに増加した。利用関係別にみると、**持家**で前年同月比+21.1%、**貸家**で同▲6.7%、**分譲住宅**で同+274.4%となった。

公共投資 減少している

●公共工事請負金額

3カ月連続減少 ↓



5月の公共工事請負金額は103.1億円で、前年同月比▲0.5%と3カ月連続で減少した。発注者別にみると、**国・独立行政法人等**で前年同月比▲53.8%、**県**で同+43.4%、**市町**で同▲38.1%となった。

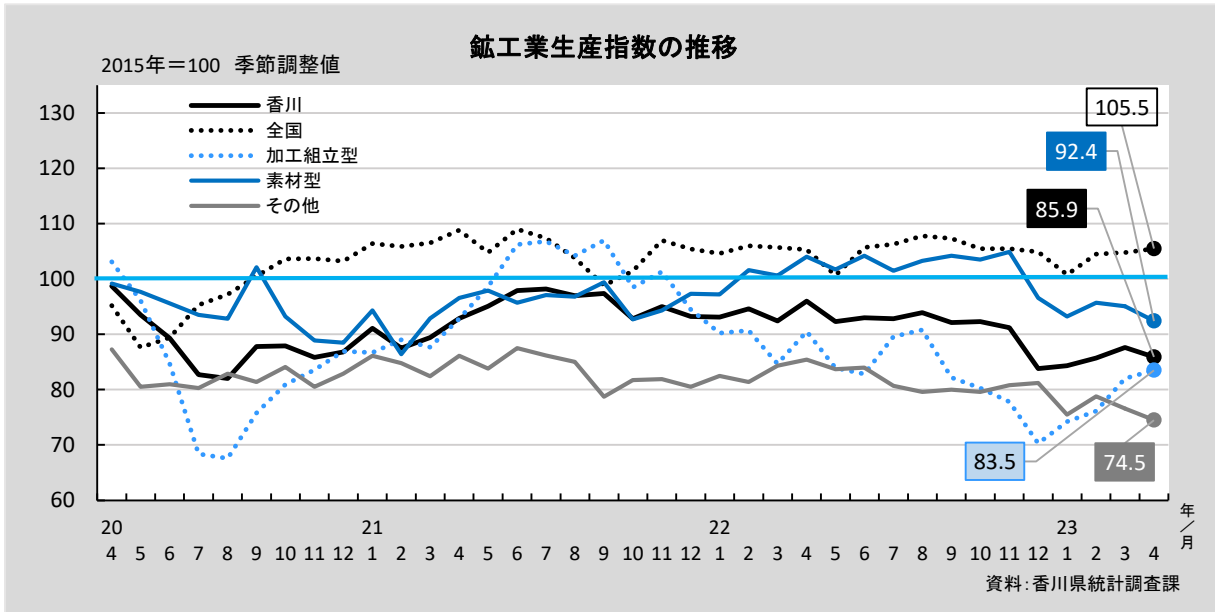
2023.4月～5月の累計では前年同期比3.3%減少している。

生産活動

弱い動きとなっている

● 鉱工業生産指数

4カ月ぶり低下 ↓



4月の鉱工業生産指数（季節調整済指数）は85.9（前月87.6）となり、4カ月ぶりに低下した。

業種別では素材型の化学・石油石炭製品工業（塩など）は前月比▲14.2%、素材型の金属製品工業（アルミニウム製建具など）は同▲11.0%と低下した。

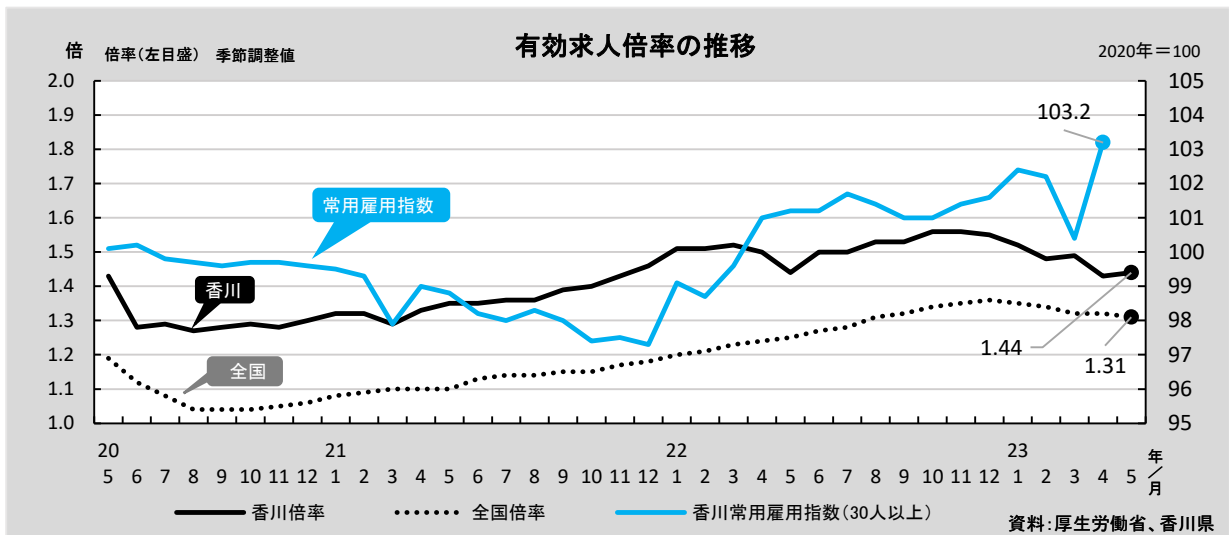
一方、素材型の非鉄金属工業（電気銅など）は同+14.8%と上昇した。

雇用情勢

緩やかに持ち直している

● 有効求人倍率

2カ月ぶり増加 ↑



5月の有効求人倍率（季節調整値）は、1.44倍（全国13位）と前月より0.01ポイント上昇した。

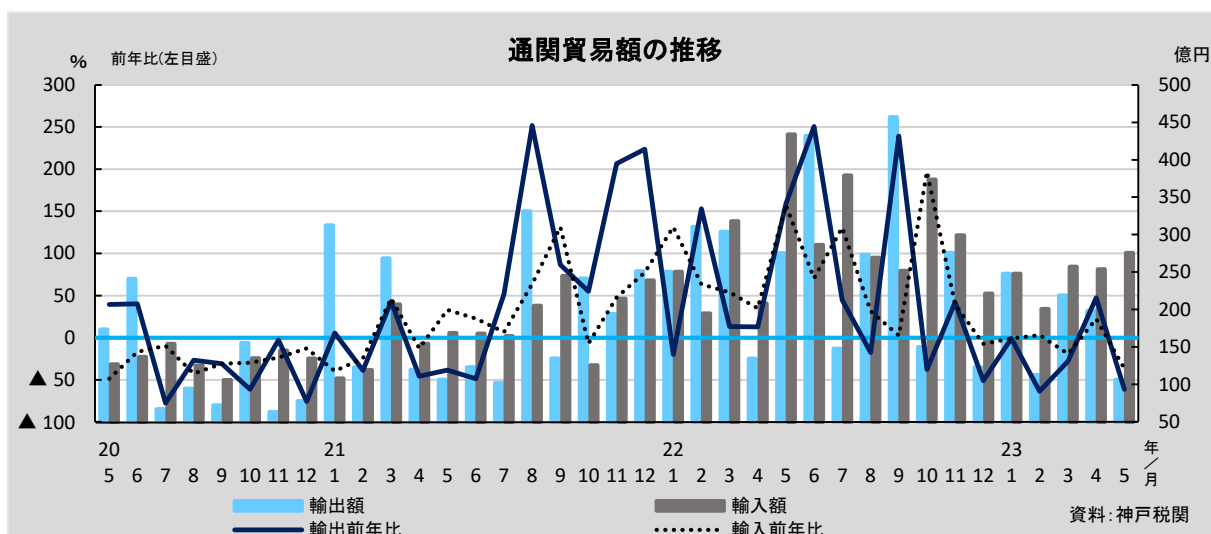
新規求人（原数値：前年同月比）は、宿泊業・飲食サービス業、農・林・漁業、公務・その他、製造業、運輸業・郵便業等で増加し、全体で+0.5%と2カ月ぶりに増加した。

4月の常用雇用指数（事業所規模30人以上）は、103.2となり、前年同月比は14カ月連続で増加した。

職業別常用有効求人倍率	倍
専門・技術的職業従事者	1.73
事務従事者	0.55
販売従事者	2.33
サービス職業従事者	2.99
生産工程従事者	2.25
輸送・機械運転従事者	2.19
建設・採掘従事者	6.35
運搬・清掃・包装等従事者	1.05

貿易

輸出、輸入ともに減少している



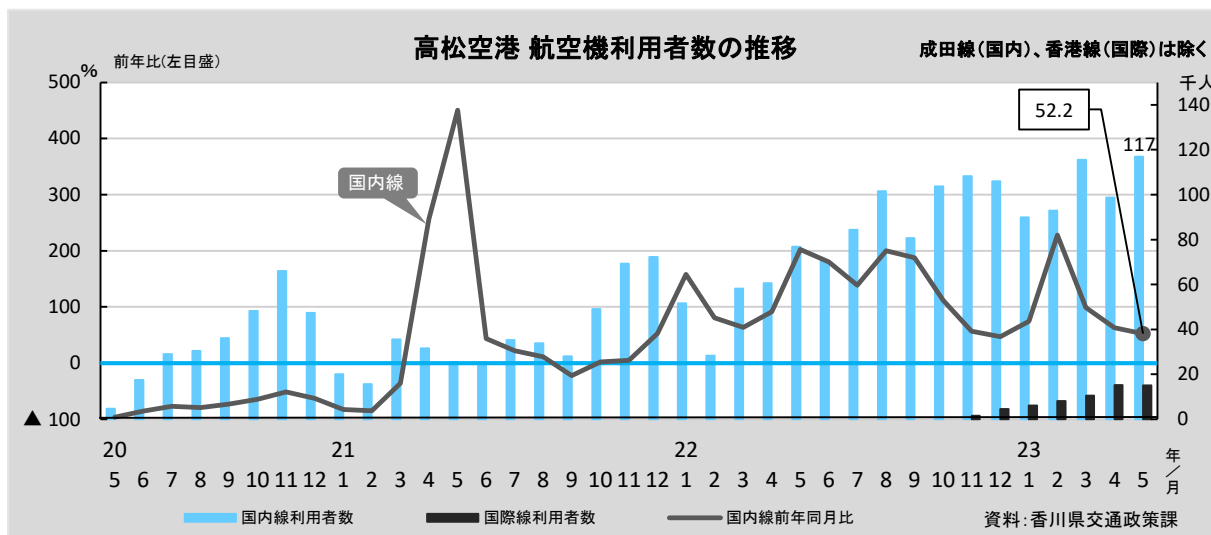
5月の輸出額は前年同月比▲61.3%の106.4億円、輸入額は同▲36.5%の275.4億円となり、差し引き169.0億円の入超となっている。

輸出は、前年同月141億円だった貨物船輸出額がゼロとなった。輸入は、石炭輸入額が前年同月比▲50.3%の122億円となった。

交通

国内線は20カ月連続増加、国際線は順調に増加

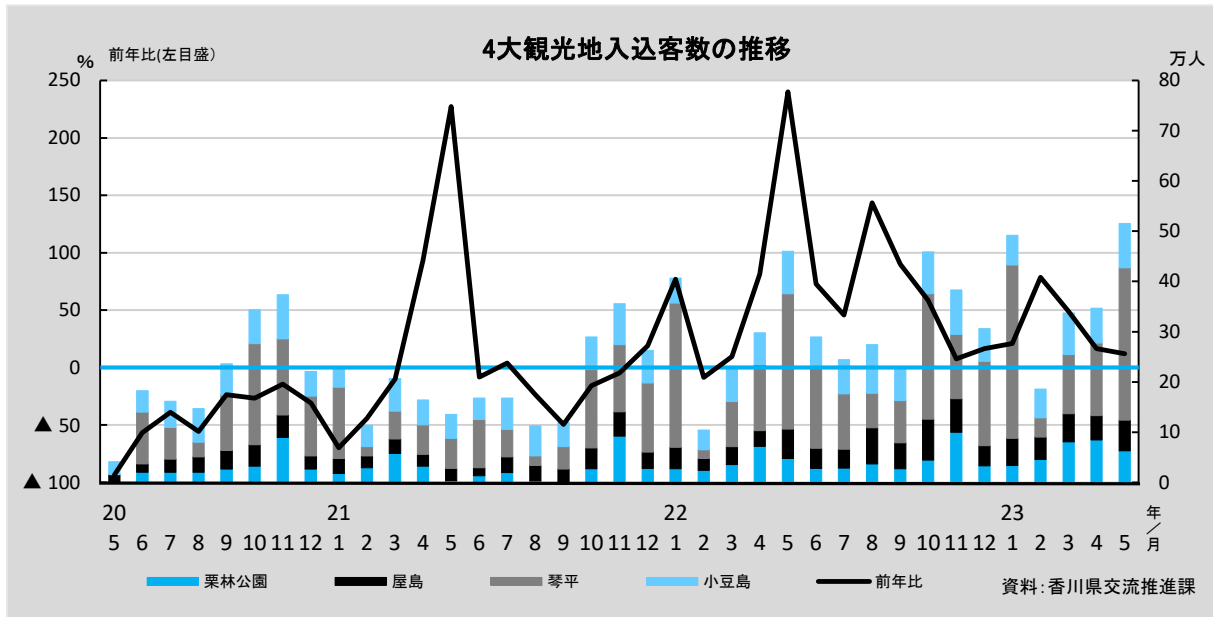
●高松空港旅客輸送実績



5月の航空機利用者数は、国内線(羽田・那覇線)が116,975人(前年同月比+52.2%)となり、20カ月連続で増加した。羽田線は106,251人(同+43.3%)、那覇線は10,724人(同+295.9%)となった。

国際線(ソウル・台北線)は15,126人となり、国際線が再開して7カ月順調に増加している。ソウル線は10,772人、台北線は4,354人となった。

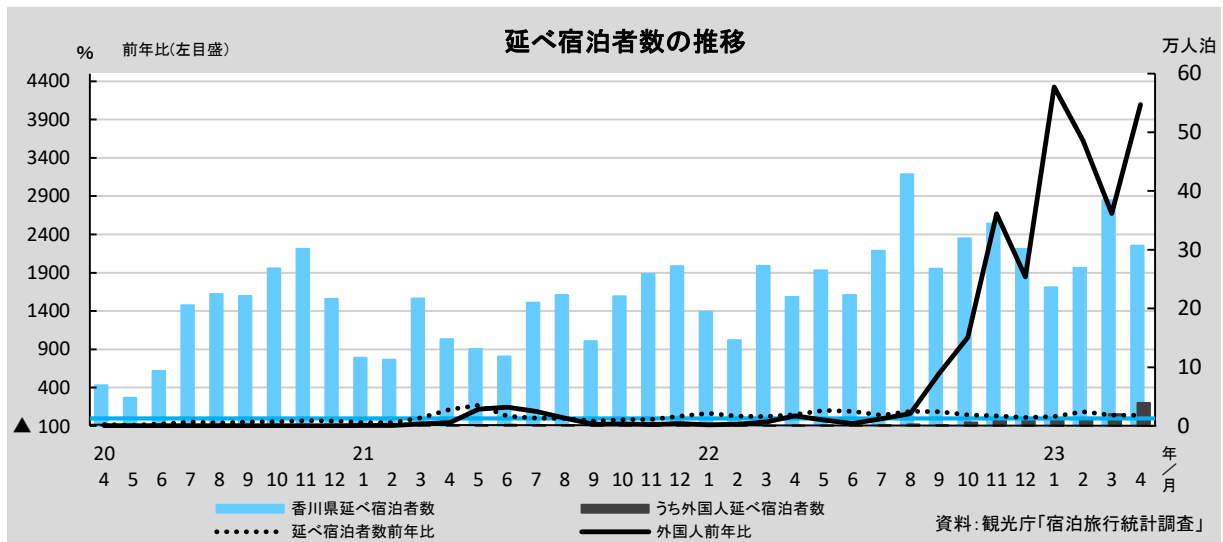
●主要観光地入込客数



観光地入込客数		栗林公園	屋島	琴平	小豆島	合計
5月(人)	前年同月比	62,940	61,098	303,000	88,679	515,717
		31.5%	4.4%	12.6%	4.7%	12.1%
1~5月累計(人)		307,858	263,857	948,000	358,115	1,877,830
		49.2%	37.8%	19.2%	18.4%	25.6%

5月の主要観光地の入込客数は、前年同月比+12.1%と15カ月連続で増加した。新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが5類に移行したことにより人流が回復し、栗林公園は前年同月比+31.5%、屋島は同+4.4%、琴平は同+12.6%、小豆島は同+4.7%と全てが前年を上回った。

●延べ宿泊者数



4月の延べ宿泊者数は306,860人で、前年同月比+39.7%と17カ月連続で増加した。コロナ禍前の2019年同月比では▲19.1%となった。

うち、外国人延べ宿泊者数は39,440人となり、前年同月比+4095.7%と9カ月連続で増加した。2019年同月比では▲37.0%となった。